

2026.10.9

報道関係者 各位

< 配信枚数 2 枚 >

■開催案内■

立命館土曜講座 2026 年 11 月テーマ

中国明代中後期の人と社会 —「法治」の実像をめぐって

開催日程 : 2026 年 11 月 7 日 (土)・21 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法 : ハイブリッド講座 (衣笠キャンパス末川記念会館 SK101+ZOOM)

2026 年 11 月の立命館土曜講座は、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の企画として、ハイブリッド形式(衣笠キャンパス末川記念会館 SK101+ZOOM)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 2026 年 11 月テーマ

中国明代中後期の人と社会 —「法治」の実像をめぐって

(1) 履歴書と勤務評定から見る 明代官僚の役人人生

日時 : 2026 年 11 月 7 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 立命館大学文学部 教授 井上 充幸

(2) 罪と罰で見る 明代中国社会の人々

日時 : 2026 年 11 月 21 日 (土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 : 立命館大学社会システム研究所 客員研究員

豊嶋 順揮
京都市立日吉ヶ丘高等学校 常勤講師

開催方法 : ハイブリッド講座 (衣笠キャンパス末川記念会館 SK101・ZOOM)

内 容 : 別紙参照

聴 講 料 : 無料

定 員 : 衣笠キャンパス末川記念会館 SK101:180 人、ZOOM:400 人

※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法 : 立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeit.ac.jp/doyo/>

主 催 : 立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他 : 文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当: 尾崎・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 2026 年 11 月テーマ

中国明代中後期の人と社会 ―「法治」の実像をめぐって

(1) 履歴書と勤務評定から見る 明代官僚の役人人生

日時：2026 年 11 月 7 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師：立命館大学文学部 教授 井上 充幸

講師による内容紹介：

秦の始皇帝が中国全土を統一して以来、その巨大な版図を統治するために歴代の王朝は強固な官僚制度を構築し、整然と運用してきました。

今回取り上げる明の時代、とりわけその後半期の政界では、「北虜南倭」と呼ばれる外患をよそに上は皇帝から下は木っ端役人に至るまで、権謀術数の限りを尽くして敵対者を排除することに血道を上げていました。このような状況にもかかわらず、なぜ明という国家は 200 年以上にわたって曲がりなりにも存続することができたのでしょうか？その理由の一つは、長年にわたる運用実績を持つ成熟した強固な人事システムが、明朝の統治機構をしっかりと下支えしていたためだったのです。

今回のお話では、新発見の明の公文書の現物史料をもとに当時の官僚人事が粛々と進められていた様を紹介し、彼らの生き様を浮き彫りにしていきます。

(2) 罪と罰で見る 明代中国社会の人々

日時：2026 年 11 月 21 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師：立命館大学社会システム研究所 客員研究員

豊嶋 順揮
京都市立日吉ヶ丘高等学校 常勤講師

講師による内容紹介：

裁判記録や法律には、犯罪者だけでなく、歴史の表舞台には現れにくい様々多くの人々の暮らしが刻まれています。

今回取り上げる 15 世紀後半から 16 世紀初頭の明代中国では、人や物の移動が盛んになり、故郷や決まった仕事を離れて生きる「無籍之徒」と呼ばれる人々が増えていました。彼らは、役所の仕事や物資の運搬、商取引を支える存在でもある一方で、ときに事件を起こすこともありました。社会が大きく変化するなかで、従来の制度だけでは人々を捉えきれなくなり、明朝も新たな法律や制度を整えていきました。

本講座では、いくつかの具体的な事件を手がかりに、人や物の動きが広がるなかで、社会と犯罪のあり方がどのように変化したのかをたどります。

さらに、新たな犯罪や社会問題に対応するため、既存の法典に規定を付け加え、整理し直していった過程にも目を向けます。こうした法整備は、後の中国だけでなく、東アジア各国の法制度にも影響を与えました。犯罪と刑罰を通して、明代中国の人々の暮らしを描くとともに、東アジアにおける法典の「近世」の始まりを考えます。

■立命館土曜講座 <WEB サイト> <https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

1946 年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。